深い学びのために

学習のポイントの解答例

1 **「狙公」「衆狙」それぞれの立場に主眼を置き、この寓話が伝えたいことをまとめてみよう。**

【答】 この話は「狙公」に主眼を置くと、「（賢い者は）うまい言葉で人をだます。」ということを伝えようとしていると解釈できる。また、「衆狙」に主眼を置くと、「（愚か者は）目先の利益にこだわって全体が見えず、結果が同じになることに気づかない。」ということを伝えようとしていると解釈できる。

▼ポイント▲ ここは、寓話の解釈に多様性があるということを気づかせるための問い。まず、寓話のあらすじを、「狙公」と猿たちとのやりとりから、丁寧にまとめさせる。その上で、「狙公」に主眼を置いた場合と、「衆狙」に主眼を置いた場合の二つから、この寓話のみの解釈を考えさせる。（この二つの立場については、指導者が助言するとよい。）この二つの解釈は、国語辞典・漢和辞典に記載されているのでそれを参考に考えさせれば解答は容易に出よう。

言葉と表現の解答例

1 **二つの漢数字が用いられている四字熟語を探してみよう。**

【答】 一日三（千）秋・一暴十寒・三寒四温・四苦八苦・七転八倒・八面六臂・九牛一毛など。

▼ポイント▲ 漢和辞典などで、数字の項目に記載されている四字熟語を調べさせればよい。他に資料集や四字熟語辞典を活用してもよい。

2 **「朝三暮四」という言葉は、現在どのような意味で用いられているか、辞書で調べてみよう。**

【答】 ①表面的な相違や利害にとらわれて結果が同じになることに気づかぬこと。②うまい言葉で人をだますこと。③命をつなぐだけの生活。生計。

▼ポイント▲ 国語辞典・漢和辞典を活用する。ちなみに、現代中国語では「ころころめまぐるしく変わる」という意味で使用する。

言語活動の解答例

1　この寓話の「狙公」と「衆狙」は、身の周りではどのような人に置き換えられるか、考えてみよう。

【答】（例）教員と生徒。政治家と国民。

▼ポイント▲「学習のポイント」1と「言葉と表現」2の活動を踏まえて考えさせる。まずは各自で考え、その後ペアやグループに分かれて意見を交換するとよい。

「狙公」が猿たちを言葉巧みに籠絡したという寓話は、「狙公」に主眼を置いて解釈すると、「うまい言葉で人をだますこと。」をたとえたものと解釈できる。一方、「衆狙」に主眼を置いて解釈すると、「目先の利益にこだわって全体が見えず、結果が同じになることに気づかない。」ということをたとえたものと解釈できる。言葉巧みに人をだます場面は様々考えられるだろうが、この言語活動では、だまされる側が「目先の利益にこだわる」という状況が必要である。

生徒には、目先の利益にこだわってだまされる状況を想像させるとよいだろう。試験範囲が狭くなることに反対する生徒は少ないだろうが、狭くなった分の学習はやがてどこかで学ぶ必要があることは意外と見落とされる。また、給付金が配られることに反対する国民は少ないが、配られた分のお金はいつか国民が税金として負担する日が来ることは意識されにくい。

（宮　利政）